



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



『うさぎ』

絵・高橋 聖大

そーれ！のかけ声ですごろく大会



6 月 22 日の地域交流カフェは、「すごろく大会」を楽しみました。すごろくは初めてだというご



利用者は、手作りした巨大すごろくの上でビックサイコロを振るのをとても楽しんでいました。勢いよく「そーれ」の掛け声とともに振っていたり、いい目がでるように念じていたり皆様の個性が見られ、私達職員も楽しい気持ちになりました。4 回ほど振り出しに戻ってしまい時間切れになったご利用者もいましたが、最後までゴールしようと全員で応援していました。

すごろく後は、皆で朝から仕込んだ「しそジュース」と「しそゼリーにバニラアイスに乗せたフロート」を提供しました。当日は湿度も気温も高く蒸し暑かったため、おいしいと好評で、「外の喫茶店で頼んだら良い値段するわよ」と言った声が聞こえてきて、作って本当によかったなと思いました。

(介護職員・柿崎皓祐)

医療的ケア児のためのレスパイトハウス

「やまぼうし」 がオープン

医療法人財団はるたか会（理事長・前田浩利医師）が、「常時医療を必要とする子どもたち＝医療的ケア児」と家族の願いを実現する「レスパイトハウスやまぼうし」（定員 10 名）を松戸市和名ヶ谷に開設します。7 月 1 日の開設に先だち内覧会が行われ、6 月 25 日（土）には開所式が行われました。

（代表理事・中野三代子）

新たな進歩的制度もつくいだした

私たち幸樹会も「医療的ケア児のレスパイト施設をつくる会」のメンバーとして、松戸市障害福祉課や、医療的ケアを持つお子さんの親御さんたちと一緒に全 32 回の「つくる会」に参加して、その取り組みを応援してきましたので、開所を楽しみにしていました。また、はるたか会の職員の皆さまや親御さんからの指導や援助をうけて、医療的ケア児の訪問看護・介護を学び、レスパイト施設の必要性を強く感じてきました。

「レスパイトハウスやまぼうし」は、日本で初めての福祉型でかつ医療的ケアも受けられるサービスで、医療的ケア児に対応する短期入所施設です。医療的ケアが必要な子供を持つ親御さんたちは呼吸器の管理や、頻回な吸引、経管栄養など、毎日休むことなくケアをしています。時にはご自身の用事や、兄弟児の行事等で出かけたいた事もありますが、今までは病院に短期入所するなどしか方法がなかったと聞きます。

入院すると、慣れない環境でむしろ体調を崩してしまうこともあるそうです。また、遠くに預けに行かなくてはならず、親にも子にも大きな負担がありました。

そんな親御さんたちの声を聞き、前田先生は「医療的ケア児が、おばあちゃんの家のような温かい雰囲気のなかで過ごせるお家を作りたい」という思いを強くしてきました。一言で「おばあちゃんの家のような…」と言っても、ただ建物を作ればよいのではなく、政治・行政関係者に働きかけ、新たな制度づくりの提言をしなければならないので大変なご苦労があったと思います。

それが形になっていく過程に一緒に参加することができたことは、私たちにとっても宝物となりました。

可愛らしい雰囲気の建物「やまぼうし」は、和名ヶ谷の地形に合わせた森の中にあるような木々に囲まれた場所に建っています。建物内部の床などには無垢材がふんだんに使われており、優しい清潔な空間になっていま



す。子どもたちが伸び伸び過ごせそうです。

前田先生は挨拶の中で、「ここで子供たちに楽しい思いを積み重ねていてもらいたい。お母さんたちには安心してもらいたい。そんな運営をしたい」とおっしゃっていました。

華ちゃんのお話が紡ぎだした

「やまぼうし」という名前は、前田先生が出会った華ちゃんという少女のお話からつけられました。華ちゃんは大磯でご家族と忘れられない思い出のレスパイト旅行を過ごし、天に還られたそうです。レスパイト旅行中は具合が悪い華ちゃんもとても元気で楽しそうだったそうで、ご両親も、そこで過ごした楽しい大切な時間をかけがえのない記憶にするために、大磯にやまぼうしを植樹したそうです。その華ちゃんのお話を紡いだ絵本『やまぼうし』を開所記念品としていただきました。素敵でここに染み入る絵本で、作者ははるたか会理事の千代由美子さんです。そんな物語を背景に医療的ケア児レスパイトハウスは「やまぼうし」と名付けられ、庭には「やまぼうし」がシンボルツリーとして植えられています。これから、5 月下旬から 6 月にかけて、白い花を咲かせ、通ってくる子供たちや道行く人々を楽しませてくれるでしょう。

医療者・介護者が気を引き締める機会に

開所式で、ちょうど私の前の席に華ちゃんのお母さんが座っていて、お話しをしました。お母さんはお人形の「華マドレーヌちゃん」を連れていて、「ここに華が来ていると思うわ」とおっしゃっていました（写真の前田先生が持っているのが華マドちゃん）。

その時、本当にふんわりと優しい良いにおいの風が吹いてきて、華ちゃんも喜んでいるなと感じました。

華ちゃんのお母さんは、病院で心無い医療スタッフにつらい仕打ちをされたこともあったと言います。「前田先生に出会って救われたのよ」という言葉に、私たち医療・介護スタッフも、心からの誠意をもって患者さん、

利用者さんとそのご家族に向き合わなくてはいけないな…と、気を引き締める機会にもなりました。

「つくる会」に一緒に参加していたお母さんたちがお子さんと一緒に開所式に参加していました。お子さんたちが嬉しそうに歌うように声を出していたことが印象的でした。

「楽しい想いをいっぱい重ねていこうね」、そんな場所になるように幸樹会も、何か応援できることがあれば積極的に応援していきたいと思います。



写真中央が「華マドちゃん人形」を持つ前田先生、その右が華ちゃんのお母さん。一番左が幸樹会の中野夏希主任、その右が中野三代子代表理事、一番右が松下泰樹薬局長



介護福祉士のこころ

幸多機さんしょう・介護福祉士主任 宮田 敬子

幸樹会に入職し2年になります。前施設が閉鎖となり職を探していた時、幸樹会の求人を見つけました。

介護職はずっとしていたけれどほとんど入所施設に勤めておりデイや訪問などの経験はありませんでしたが、“これも何かの縁、新しい事をやってみよう!!”と思い立ち、不安と期待を持って入職したのを今でも覚えています。

何気ない日常を大切に



中学区内に祖父母の家があり、父もそこで仕事をしていたこともあって子供の頃からよく遊びに行っていたので、祖父母と過ごすことは当たり前の日常でしたし、祖父母と過ごすのは好きでした。

「介護の仕事がしたい!」と思いこんでこの世界に入ったと言うよりは、祖父母との生活の延長線で選んだように思います。

祖父母は出来る限り自宅で生活していましたが、最後は施設に入り8年前に亡くなりました。“もっと自宅で過ごしたかったかな…”と思うことがあります。

さんしょうで働いていると祖父母との事を思い出します。一緒にドライブや公園に行ったり、家でのおんぴりオセロをしたり、ご飯を作って一緒に食べたり…、何気ない日常ですが良い思い出です。

ご利用者さんには、そんな何気ない日常生活を職員や他のご利用者と共にし、いつまでも自宅で安心して楽しく生活してほしいと思います。そのために利用者さんの今必要な事を常に想い支援していきたいと思います。

ジャガイモ・玉ねぎを収穫 落花生植え付け

あんず畑

6月10日、あんず畑でジャガイモと玉ねぎの収穫をしました。次の収穫をめざして落花生の植え付けもおこないました。

ボランティアの飯塚康信さんの知識が豊富で、落花生の苗を植える時、苗を土より少し高くして土を被せるなど知らないことがたくさんあって勉強になりました。

当日は湿度が高くじめじめした気温の中での作業になりましたが、ご利用者や職員も水分補給をしっかりと行いながら楽しく収穫することが出来たと思います。

じゃがいもや、玉ねぎのサイズが小さかったことが少し残念でした。
(介護職員・柿崎皓祐)





デンマーク便り...④

ラスムッセン 京子

前回お伝えしたEUの軍事協定への参加を問う国民投票では、過半数のデンマーク人が軍事協定に参加することに賛成しました。

メッタ・フレデリックセン首相は6月27日に衛星放送によるウクライナ国会での演説で、デンマークはウクライナがEU加盟国候補になることを全面的に支持する事を表明しました。プーチン・ロシアによるウクライナ侵略は、デンマークの安全保障政策・国民意識を大きく転換させつつあります。NATOは、東欧での軍事行動のために動員できる兵力を7倍に増強する姿勢です。

「第三次世界大戦は望まないが…」



最近の報道で、ラトビアの首都リガから車で1時間ほどのところに、北欧神話に登場する「ニヴルヘイム」のデンマークキャンプ（基地）の様子を知りました。「ニヴルヘイム」は北欧神話の九つの世界のうち、下層にある「冷たい氷の国」「霧の国」「暗い国」と言われる世界です。その森に囲まれ木片が散乱する砂地に、750人のデンマーク兵が12人用テントに分かれて生活しています。トイレや屋外ウェイトトレーニング用具がずらりと並び、次の演習のための装甲兵員輸送車や歩兵戦闘車が長い列をなしているのです。装甲車のベルトを交換する小隊がいます。サウンドボックスからデンマークのラップ音楽が流れています。

リラックスした雰囲気もあります。しかし、その背後には、あえてそれ以上考えようとする人が少ない恐ろしいシナリオが潜んでいます。

物流を担当するマティアスさんは、「もし、大混乱に陥れば、新たな世界大戦の始まりとなるかもしれない危険性をはらんでいます。アフガニスタンなどで行ってきたような“反政府勢力”との戦いとは全く違います。ここでは、第三次世界

大戦のための訓練をしているのです。ここで始まったら、本当にひどいことになるのは分かっている」と、言います。

整備中の歩兵戦闘車の上に座るニコライさんは、「危険をいつも頭の片隅におき、とっさに判断そして行動できるための訓練です。もし、ここで大混乱が起きたら、新しい世界大戦の始まりになるかもしれない」と言います。

ニコライさんマティアさんは、安全上の理由からファーストネームで呼び合っています。

ラトビアの中隊長であるヤコブさんは、「これまで以上に真剣に、ロシアとの国境から50キロ離れた森林地帯にある廃墟で、同僚たちが市街戦の練習をしているのだ。30年前、ここはソ連のロケット基地だった。今はNATOの兵士の訓練場になっている。潜在的には、本格的な戦争に発展する恐れがあります。それは、私たちが期待していることでもありません。しかし、本格的な戦争に発展する恐れがあり、そのための訓練が必要です」と、言います。ヤコブさんは、敵に占拠された建物に入る訓練をする戦闘員たちの動きを注視し、そして細かい実戦上の注意を述べています。彼らの生命が掛かっているからです。

看多機さんしょうの見学研修の感想

千葉健愛会あおぞら診療所で在宅医療研修をされて研修医の皆さんから感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

医療や研修を考えるうえで重要な経験

虎の門病院研修医2年 谷水 暉

本日さんしょう様にて実習させて頂いた虎の門病院研修医2年目の谷水暉です。

短い時間ではありましたが、自分の医療の捉え方や研修後の進路を考える上で非常に重要な経験となりました。このような機会を作ってください本当にありがとうございました。

八柱学習会のお知らせ

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第3金曜日」）

7月15日（金）18：30～、幸樹会館2階

テーマ：「科学的介護とLIFEについて」

報告・豊永誠容（理学療法士）

《参加自由》

今月の屋上太陽光発電量は、

1,087KWh



幸樹会館電力使用量 4225KWh 自給率 25.73%

職員募集！非営利・働きがいある職場 看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550